# かしわ

昭和37年5月10日

NO. 72

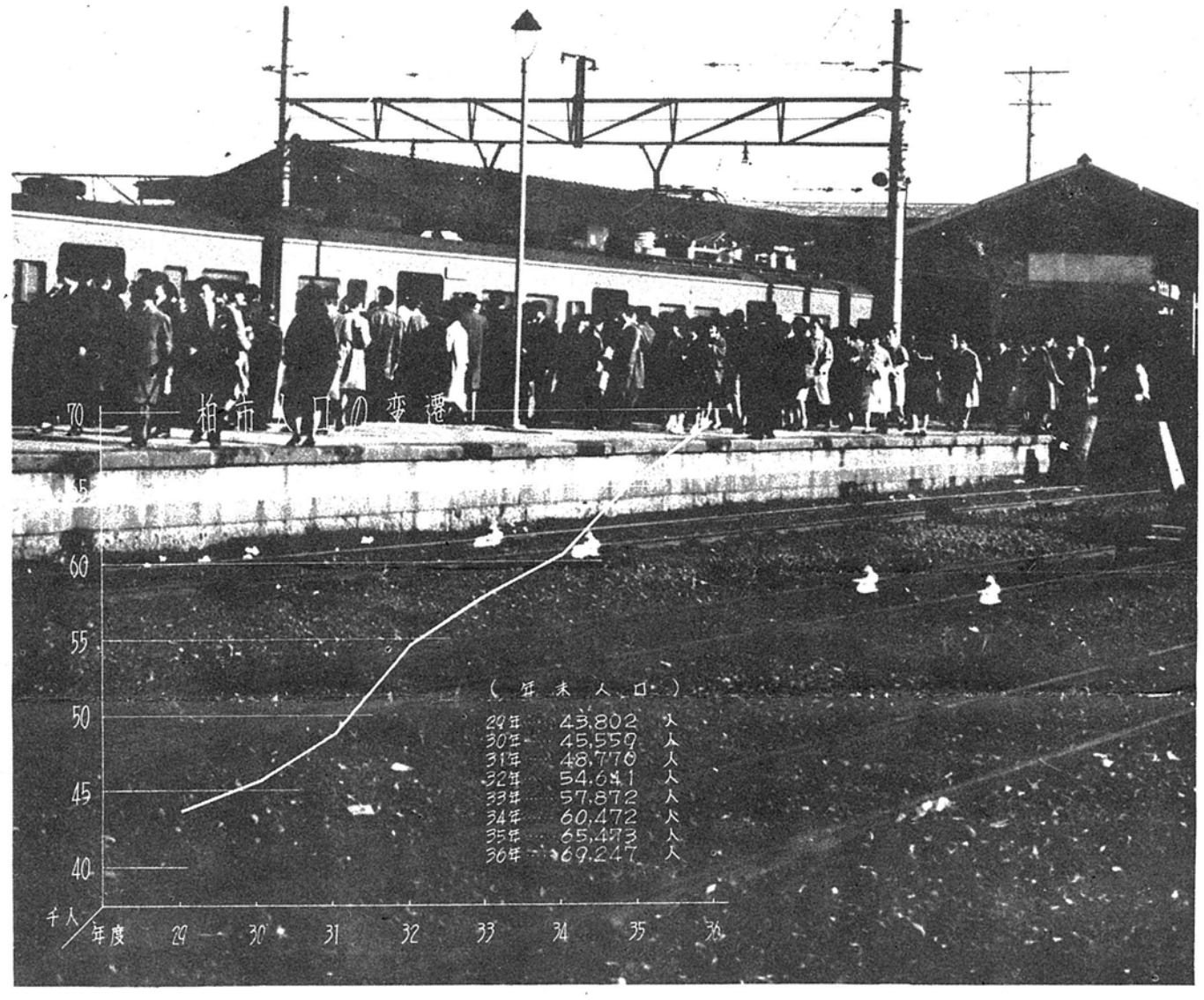
臨時特集号


**市章のいわれ……左の柏市章は**
昭和29年11月3日に制定したもので
「か」「し」「わ」の三字を組み合わせ、
力強さと伸びゆく姿を象徴している。


発行　柏市役所　　撮影　　編集　企画広報係

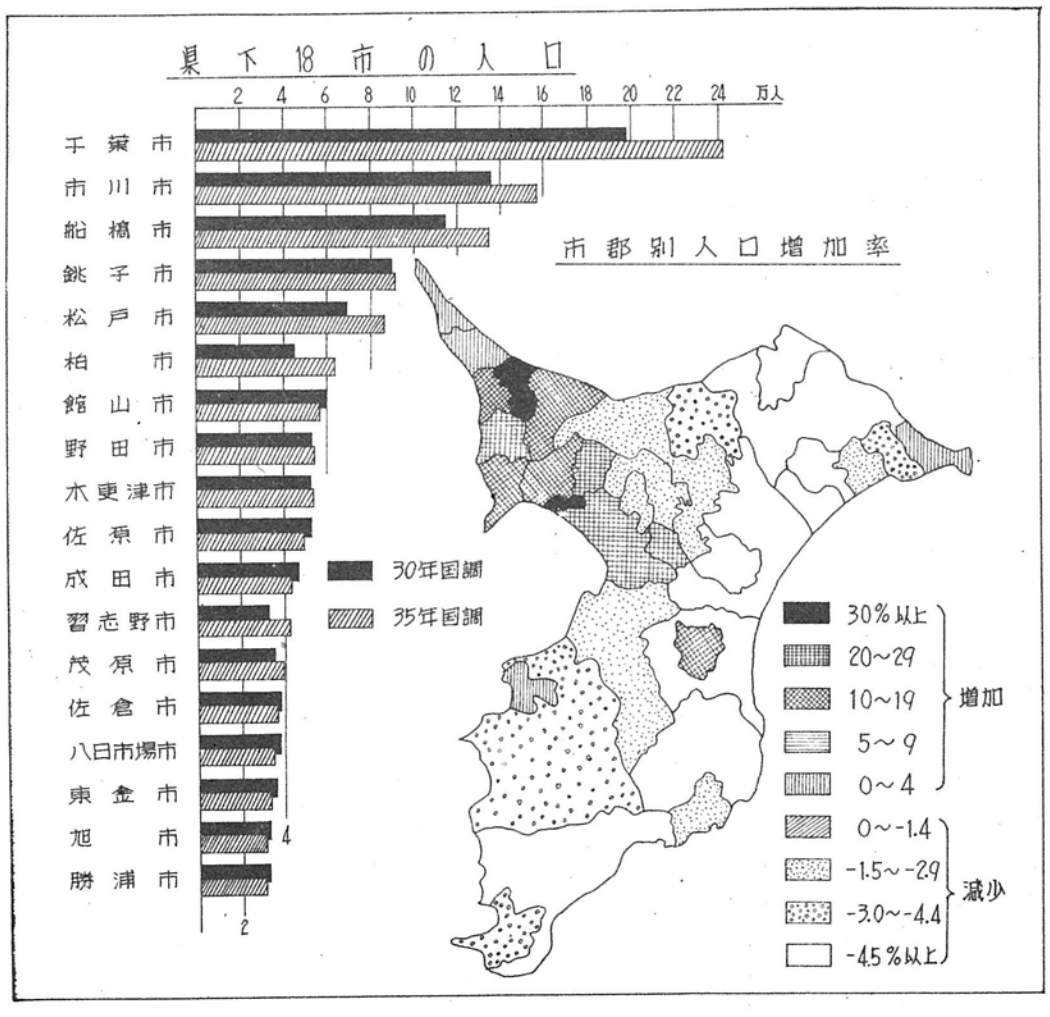

# 人口7万を突破！

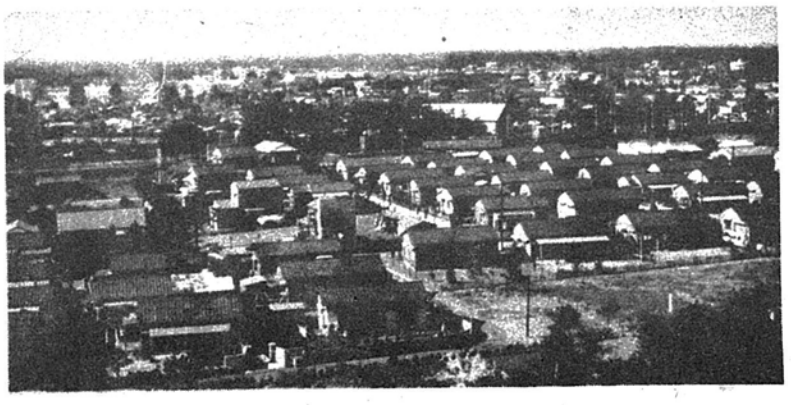
柏市は、昭和二十九年、千葉県下十七番目の市として発足しました。当時は人口四万三千余、戸数約八千二百戸で、一町三村の合併によるものです。肥沃な耕作地と、豊かな緑に恵まれて、葛飾野の静かな田園都市と云われました。それが僅か数年を経た今日、人口七万人を数え、活気に満ちた建設の槌音が、市内の至るところにこだましています。新しい商店街が軒を連らね、山林が切り開かれて住宅地と化し、数多くの工場が進出して来ました。これは日本経済の驚異的な成長も大いに影響しているのですが、それにも増して、東京都の至近距離にあるという位置と、平坦な未利用の土地に恵まれている立地条件を見逃すわけには行きません。従って柏市は、これからも著しい発展を続けて行くものと期待されていますが、この変化は、単に人口の増加のみを喜ぶばかりでなく、住みよい文化都市としての必要な施設を整備し、新設して行くおびただしい投資を必要とします。そのためには、住宅地の拡大と相俟って、柏市に適応する工場を誘致し、財政基盤を確立することも必要です。このような均衡のとれた街造りを目指して、私達の郷土は、着々建設の歩みを続けています。そこで、昭和三十七年度の始めにあたり、発展する市街地の様相、市内各地で進められているおもな建設事業や、既設の施設などを、広報のカメラでとらえ、伸びゆく柏市の姿を見てみました。「古きをたずねて新らしきを識る」と共に、新らしきを識って将来に資することに役立てたいと念願するものであります。




## 著るしい人口の伸び

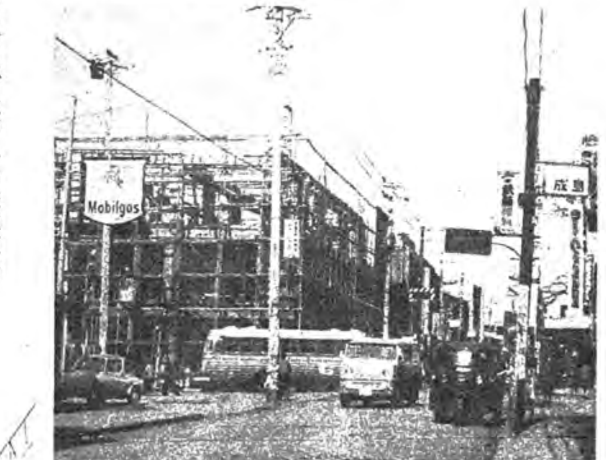
昭和三十年と三十五年に行なわれた国勢調査をもとにして、五ケ年間の人口の伸び具合を見ると、柏市は非常な増加率を示しています。全国では五百五十六の市がありますが、大阪府の豊中市が五十八％の増加率で第一位を占め、続いて東京都の調布市、小金井市があり、柏市は四十二％の増加率で第六位に入っています。千葉県内では、習志野市が三〇％増で、第十三位、松戸市が二十六％増で第十八位となっています。左の表は、千葉県の十八市の比較表ですが、東葛飾地方と千葉周辺が如何に伸びているかが解ります。これは、やはり東京都への通勤可能地と、京葉工業地帯造成の要素によるものと思われます。県南部と九十九里沿岸は逆に減少の傾向を強めて居り、「南主北従」といわれていた従来の千葉県の態容も大きな転期に来ていることがうかがわれます。上の表は、柏市の人口の推移表ですが、昭和三十一年からの急上昇は、千代田町、緑ケ丘、光ケ丘等の集団住宅の出現がもたらしたものであり、昭和三十四年からの上昇は民間分譲住宅の活潑な動きが影響しています。この間に於ける増加率のうち、自然増は一・四％から一・七％の程度であり、その他は社会増が人口増加の主因をなしています。この増加傾向を続けて行けば、昭和四十年頃には、人口十万の都市になるものと予想されます。

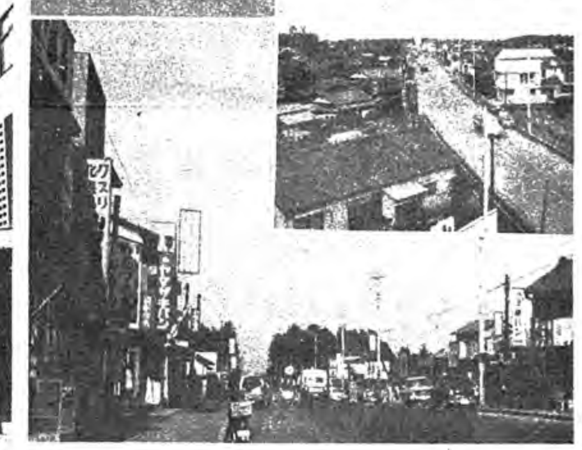


〔上〕消防本部望楼からみた市街地。
〔下〕店舗の改築を進め、商業発展を図る栄町商店街と、愈々発展する新国道商店街。

明治までは、水戸への往還道路（国道六号線）として、僅かに数軒の家並があった程度でしたが、常磐線の開通（明治二十九年）野田線（明治四十四年）船橋線（大正十二年）の交叉によって、交通の要所となり、次第に街らしくなって来ました。それでも昭和二十九年頃までは、街の中心に藁葺屋根の家を散見出来たものです。昭和三十年に、全国にさきがけて、駅前通りの防火帯建設工事が始まり、引続いて各地に耐火建設が行なわれています。柏市の十年前を知る人は、変わり方の激しいこと、街並みの立派になったことなどにきっと吃驚されるでしょう。旧国道に替って新バイパス線（新国道六号線）が完成し、更には、環状一二九号線の貫通によって、南北の方向にますます発展することが期待されています。

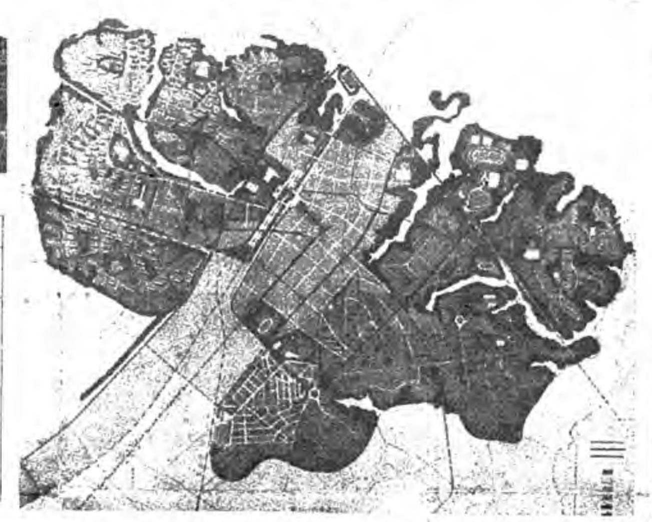


〔右〕全国に先がけて、出来上った、防火帯建築の駅前通り商店街は、柏市周辺から流れ込む購買客で、繁栄の一途にあります

〔上〕現在、柏市総合開発計画の樹立を急いでおりますが、写真は、秀島教授による柏市都市計画構想図です。

〔左〕日本住宅公団が、昭和三十一年に、団地住宅のモデルケースとして、初めて建設した光ケ丘団地で、九六〇戸の公団住宅が並び、更にそれに続く、宅地造成が進められています。



〔下〕〔右下〕の写真は南増尾と逆井に造成された分壌地ですが別表のように、南部地区では、盛んに宅地造成がおこなわれています。

柏市は南北に三分して、南部地区が住宅地、中央が商店街、北部が工業地帯の方向に開発されています。このうち、住宅地は、柏市の光ケ丘、松戸市の常盤平の両公団住宅を核として、周辺の分譲地造成が盛んであり、十数社の民間業者が入っています。市でも区画整理事業を実施し、計画的な街作りに進んでいます。

住宅地造成一覧表

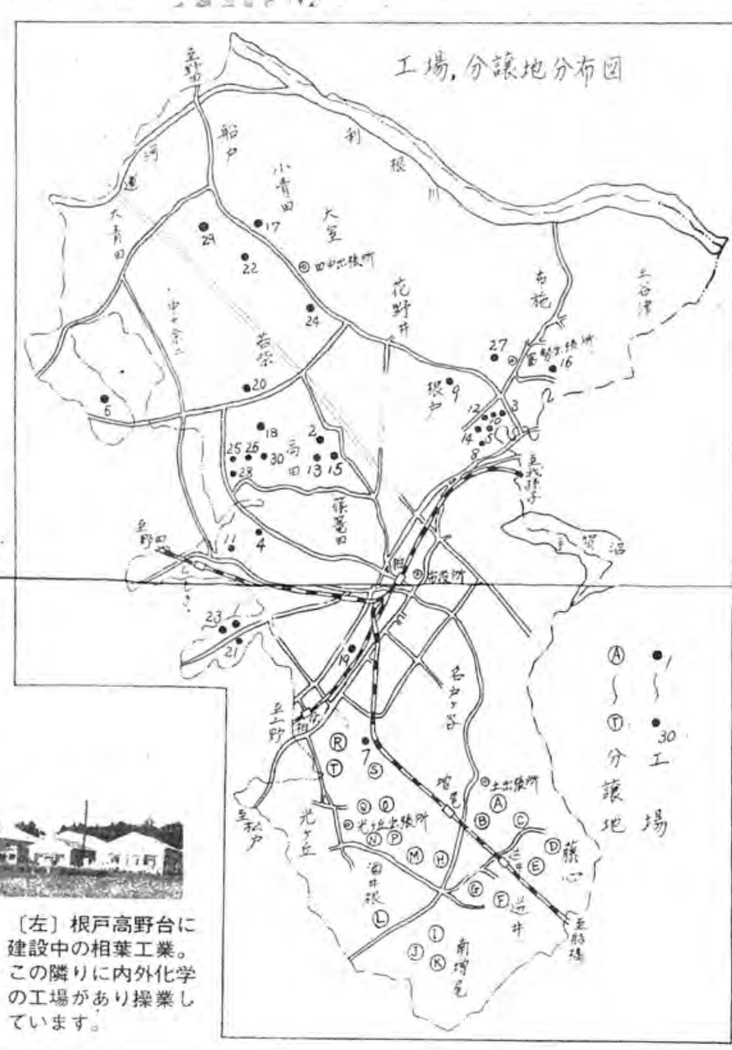
| 分布図記号 | 面積(m²) | 分布図記号 | 面積(m²) |
|---|---|---|---|
| A | 16,500 | K | 9,900 |
| B | 14,850 | L | 16,500 |
| C | 33,000 | M | 26,400 |
| D | 34,650 | N | 26,400 |
| E | 49,500 | O | 66,000 |
| F | 39,600 | P | 56,100 |
| G | 16,500 | Q | 11,550 |
| H | 9,900 | R | 11,550 |
| I | 61,500 | S | 16,500 |
| J | 44,550 | T | 13,200 |

柏市進出工場一覧表　昭和35年6月～昭和37年2月　敷地面積 3,300m²以上

| 分布図番号 | 会社名 | 生産品名 | 分布図番号 | 会社名 | 生産品名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 三晃工業(株) | 塩化ビニール | 16 | (株)紀長伸銅所 | 伸銅 |
| 2 | 柏アセチレン工業(株) | 溶解アセチレン | 17 | 小泉建材興業(株) | 窯業 |
| 3 | 東京製鋲(株) | 螺子 | 18 | 昭和護謨(株) | ゴム製品 |
| 4 | ニセイハム(株) | ハム | 19 | 日立運輸(株) | 運輸 |
| 5 | 柏栄工業(株) | 螺子 | 20 | 大日本印刷(株) | 印刷 |
| 6 | (株)東京自動機械製作 | 自動機械 | 21 | (株)桜井工業所 | 塩化ビニール加工 |
| 7 | 東京印刷紙器(株) | 印刷紙加工 | 22 | 橋本金属工業(株) | 伸銅 |
| 8 | 有限会社小島鉄工所 | 螺子 | 23 | 三晃化学(株) | 塩化ビニール加工 |
| 9 | (株)鈴木製作所 | 什器・家具 | 24 | 東永合成工業(株) | 断熱材 |
| 10 | ツバサ化学工業(株) | 塗料 | 25 | 有限会社小島製作所 | 建設機械部品 |
| 11 | オリエンタルモーター(株) | 小型電動機 | 26 | (株)枚橋機械製作 | 高圧バルブ |
| 12 | (株)大有社電機製作所 | 電動機 | 27 | (合資)木村製作所 | 螺子 |
| 13 | 新日本建設工業(株) | 冷暖房器具 | 28 | (株)浜田精機鉄工所 | 印刷機械 |
| 14 | 内外化学(株) | プラスチック成型 | 29 | 岡本工業(株) | 建築鉄骨 |
| 15 | 新井建設(株) | [illegible]部品 | 30 | (株)東洋製作所 | 理化学研究機械 |

〔左〕千葉窯業のコンクリート管

市内の工場は、戦時中、日立製作所、東京機器、日本光学、などの軍需工場があって、数千人の勤労者を擁していましたが、終戦とともに閉鎖され、僅かに小工業が散在するのみでした。市では、昭和三十年に、「工場誘致条例」を設けて、企業誘致の積極的に工場誘致につとめその結果幾つかの工場が建設されましたが、それが影響して昭和三十六年以降、上表のような企業が進出してきました。柏市の地勢の関係から、重工業は向きませんが、中小企業の団地化を促進し、次第に生産都市へと脱皮しつつあります。

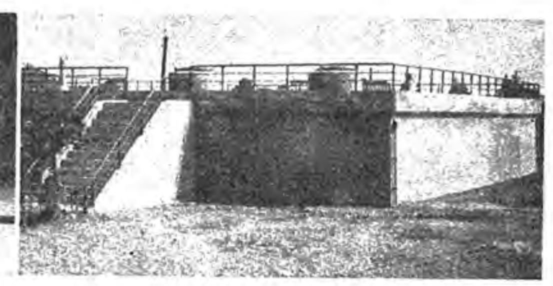


〔左〕豊住に建設され現在操業している東京印刷紙器の内部
〔下〕豊四季新宿に建設、塩化ビニールの製造、化工をしている三晃工業

〔左〕根戸高野台に建設中の相葉工業。この隣りに内外化学の工場があり操業しています。

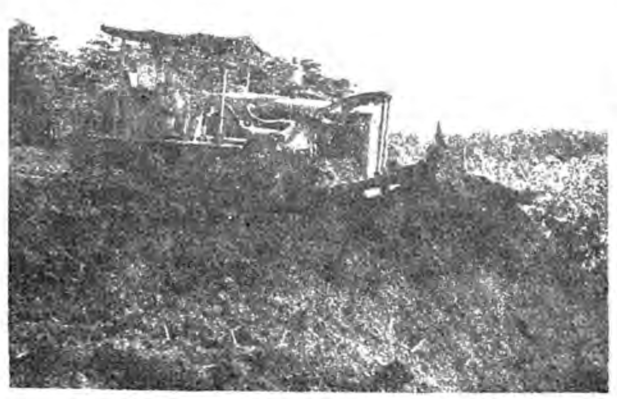
# 人口急増に対処する公共施設と事業

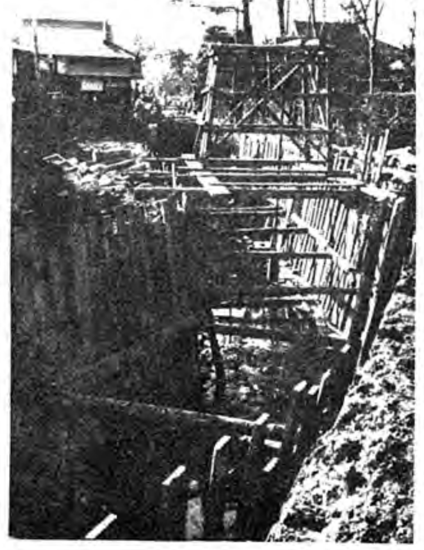
東葛中部地区総合開発事務組合（柏・流山・我孫子・沼南）の火葬場が布施堂之下に建設されます。写真は犬山市の火葬場ですが、これと同じような近代的なものができるわけです。



〔上〕人口の急増により、現在の水道施設は限界にきており、三十七年度から総額三億五千万円の費用で、拡張工事にかかります。

〔下〕宅地造成事業に活動するブルドーザー。すでに第一、第二団地の造成も終り、愈々軌道にのりつつあります。





〔右〕下水道事業は、柏駅を中心として四〇三ヘクタールを、将来給水人口五万人と見込んで計画したもので、現在、区画整理事業と併行して、幹線下水道の工事をしています。

〔下〕本年1月19日に落成した中央公民館。この公民館は中央公民館建設計画の第一期事業として建設されたもので、文部省の指導を受けて設計したモデル公民館として全国的にも注目されている。本年は、この隣りに市民会館を建設する予定です。

人口増による生徒増に備えるため、市では毎年度、総予算の二〇パーセント以上をふりあて、教育施設の整備に努めています。

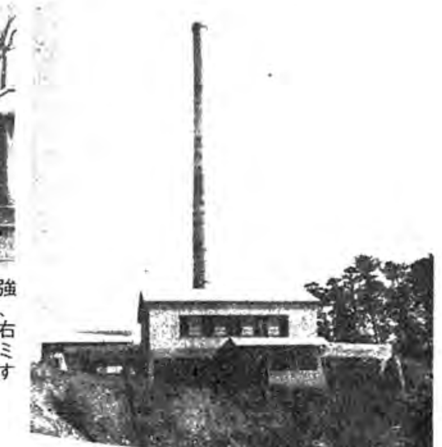
〔上〕二月に竣工した四小の増築校舎〔中〕中学生の急増にそなえ増築された二中校舎〔下〕すでに九教室の工事を終り、現在第二期工事の一八教室を工事中の柏中

〔上〕呼塚地先で、一級国道と交叉する二級国道は、別名「東京環状線」とも云われ、●横浜－千葉－柏－野田－川越－八王子を結ぶ重要路線である。

市の発展は、道路の整備にかかっており、毎年度、予算の一七パーセントをふりあて、道路の舗装に、道路の新設改良に拍車をかけております。

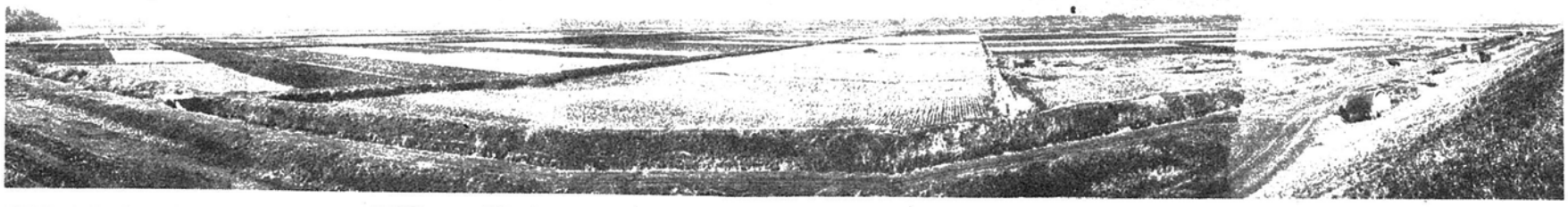
〔上〕名戸ケ谷地先で、新設を急いでいる日立藤心線
〔右下〕千代田町内の舗装工事

〔上〕住宅の増加に伴ない、消防力の強化が望まれ、常磐線以西の拠点として、新国道際に分遣所を設置しました。〔右下〕この車はロードパッカーというゴミ収集車で、2トン積、2人の作業員ですみます。



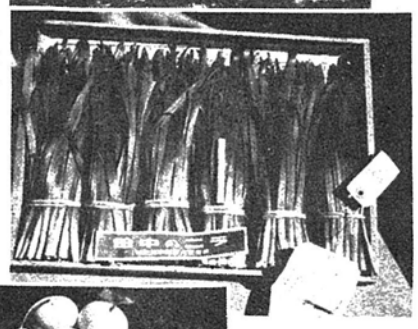
〔上〕市民一日のゴミ排出量は約一三トン、これを焼却するために六六八万円の工費で、昭和三十五年に完成したもので、一日最大約一九トンの処理能力をもっています。

# 農業



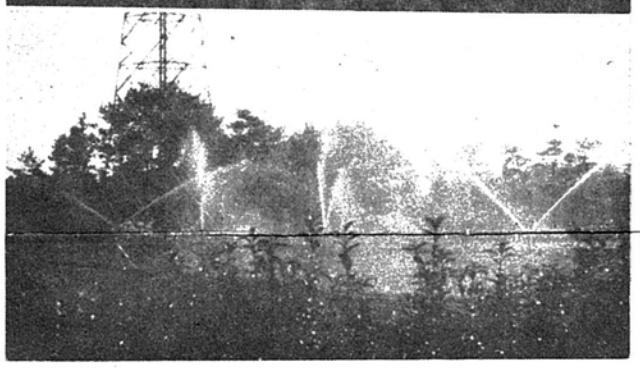
合併当時の柏市は、農業人口が全人口の約半分を占めていましたが、市街地開発が進むにつれて、その比率は減少の一途をたどっています。農業生産物も、従来の主穀中心から、近郊農業地帯の特色を生かして、高級蔬菜中心へと、移行してきました。新農村建設総合対策事業による機械化の促進、病害虫防除の共同化、農業改良資金の融資など、農業の姿も大きく変わりつつあります。今日では柏市の「みつば」「にら」「こかぶ」は全国にその声価を認められ、換金作物の上位を占めると共に、他の野菜類も東京都の台所に直結して、豊かな営農への道へと進んでいます。

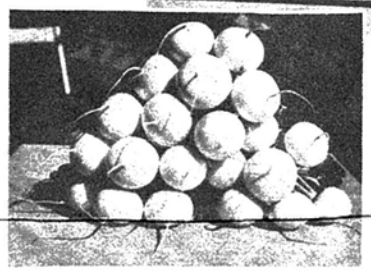
〔上〕北総のウクライナと呼ばれ米倉地帯と云われている、1100町歩にわたる広大な利根遊水地〔下〕ヘリコプターによる薬剤撒布〔左〕この遊水地の開拓に尽した人の顕彰碑



〔上左〕畜産振興も軌道に乗りつつあり、乳牛や豚の導入が盛んにおこなわれています。〔上右〕高性能を発揮する市有トラクター

〔左〕東京の青果市場で「豊四季かぶ」として知られている。また「にら」も、さかんに出廻るようになった。





〔左〕新宿台の畑作研究会がおこなった、畑地かんがい施設（スプリンクラー）

〔上・左〕本市のビニール利用促成栽培は、県下に一、二を競うほど盛んで、東京への蔬菜類の供給源となっている。

# 観光

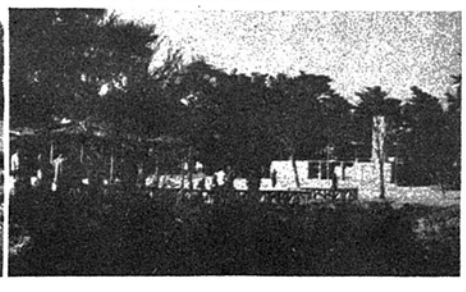
「釣りとハイクの…」とうたわれている　県立手賀沼公園。

柏市は、北東に利根川、北西に利根運河に接し、東に手賀沼を望む北総の台地に位置します。舟便を主とした往時から集落が開けていたようで、歴史的に貴重な建築物や、史蹟などが残っています。一、二〇〇年前に造られたといわれる「若柴観音」や一一五〇年前の布施弁財天などは、重要文化財級の結構を誇り、戸張の古代住居跡、布施古城跡、酒井根合戦場跡、などは考古学上見逃し得ないところです。近代では、三百年の老松が並ぶ南柏附近、小金ケ原牧場跡の土堤などが柏の移り変りを伝えています。昭和三十五年、柏ゴルフ場も開かれ、近く手賀沼観光開発も着手されて、悠久の大河のほとり、由緒と近代化の両面を備えた、リクリエーション都市としての柏が脚光を浴びることでしょう。

〔上〕東京に近く、交通の便がよいので、ゴルファーの人気を集めている柏ゴルフ場。

〔下〕柏市と茨城県との境にある利根川は、釣り場として、太公望達に親しまれている。特に近くの古利根川は絶好の釣り場として知られている。

〔下〕江戸時代に、水戸街道を往来する人の便をはかるために、千本の松並木を作ったと伝えられる小金ケ原松並木の名残り。



〔左下〕戸張の古代住居跡に、当時と同じような器具と材料を使用して復原した弥生式文化時代の住居〔下〕児童遊園地として、市民の憩の場所として親しまれている柏公園。手賀沼が展望される。

〔上〕布施弁天は、関東三弁天の一つに数えられ、今から1150年前に弘法大師が建てたといわれている。隣りに桜の名所、曙山公園がある。